

3月まであと1週間、まだまだ寒い毎日ですが、各地から届く“梅だより”に春の気配を感じます。現在会員登録数 2,242 人さま。次号は3月22日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 78

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成27年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第33回（平成28年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月28日（火）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Masayo's Talk

『レイン 雨を抱きしめて』 アン・M・マーティン/作 西本かおる/訳

100%ORANGE/装画 小峰書店 2016年10月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：11歳のローズは父と犬のレインと暮らしている高機能自閉症（アスペルガー症候群）の少女。父からのプレゼントだったレインはハリケーンの時に行方不明になり、保護施設で見つかるが、体に元の飼い主の情報の入ったチップが埋められていた。ローズは元の持ち主に返すことがルールだと思い、叔父さんと一緒に持ち主を探す。

M：原題はRain Reign。最初のレインは雨の日にやってきた犬の名前で、次のレインは君臨という意味です。

Y：つまり、犬のレインがローズの生活に君臨したという意味であり、ローズが同音異義語に執着していることとも関わりがあります。

M：レインと名付けられた犬が擬人化されず、そのしぐさや行動の細かい描写によって表現されている点がいいなと思いました。人間の言葉を持たないレインはローズにとってあくまでも他者であり、そのうえで両者の結びつきが丁寧に描かれています。

Y：障がいのあるローズがレインを介して級友と話ができたり、行方不明になったレインを探す過程でコミュニケーション力を伸ばしていったり、レインがいなくなった寂しさを体験したことで、ハリケーンで被害を受けた級友に共感できる場面があったりする点もよかったです。

M：この作品はローズの視点で書かれていますが、48の短い章で構成されており、ローズの意識や認識のありようが反映されていると思いました。

Y：ローズのパパと叔父さんも強く印象に残りました。パパたちの父親が暴力をふるったことで、兄弟は子ども時代に7つの家庭を経験し、32人の子どもと一緒に暮らしました。

M：パパは決してローズを殴らないと必死になりながら、ローズとうまく意思疎通ができないことにいら立ちを感じ、それに追い打ちをかけたように失業してしまう。読んでいてせつない気持ちになりました。

Y：一方、叔父さんはパパに遠慮をしながらも、ローズを必死で支えます。学校の送り迎えをし、レイン探しや飼い主探しを手伝い、ハリケーンの際は食料を持ってきます。

M：ローズと叔父さんが指をクロスして胸に当てるという儀式、同音異義語を一緒に探すなど、ローズに寄り添っています。ちょっと出来すぎだけれど、ローズには絶対に必要な人だと思いました。

Y：素数と同音異義語に強く執着するローズの、レインやパパに対する思いが伝わる作品という意味で、多くの人に薦めたいと思いました。

* 今回のゲストは愛知淑徳大学教授の酒井晶代（M）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第18回「土神ときつね」

欲望の三角形

「雪渡り」「とっこべとら子」（NO.75～77参照）と、狐の登場する賢治童話をとりあげてきましたが、今回は、「土神ときつね」です。

〈一本木の野原の、北のはずれに、少し小高く盛りあがった所がありました。いのころぐさがいっぱい生え、そのまん中には一本の綺麗な女の樺の木が

ありました。)

これが書き出し。この木には、ふたりの友だちがあつて、ひとりは、五百歩ばかり離れた、ぐちゃぐちゃの谷地に住む土神で、もう一人が野原の南からやってくる狐です。樺の木は、どちらかという狐が好きだといいます。土神は、神という名前なのに乱暴で身なりもきたないのです。狐は上品で、夏のある晩も、ハイネの詩集をもって訪ねてきます。

作品の語り手は、「ただもしよくよくこの二人をくらべて見たら土神の方は正直で狐は少し不正直だったかも知れません。」と述べますが、「土神ときつね」の論者たちは、ふたりに様々な対立を見てきました。土神(前近代)—狐(近代)とするのは、小森陽一です。山根知子は、土神—狐に黒と赤の対比を見ます。土神は、いつもはだしで爪も「黒く」長いのに、狐の「赤」革の靴はキッキッと鳴るといふぐあいです。

ふたりは、樺の木をめぐる三角関係の中にいます。土神にとって、狐は闘争心を燃やすライバルであり、自分より優位な、嫉妬や羨望の対象でもあります。秋のある日、樺の木ところで狐と行き会った土神は、狐の「赤」革の靴がキラッと草に光るのにびっくりします。すると、土神は、にわかになり出し、顔も「真っ黒」に変わります。どす黒い欲望が土神をうごかして、後ろから狐にとびかかり、物語は悲劇的な結末をむかえるのです。

「欲望の三角形」—これは、文学作品における三者関係について考察した、作田啓一『個人主義の運命—近代小説と社会学—』(1981年)の中にあることばです。日本の小説では、夏目漱石ほかをとりあげています。「こころ」の「先生—K—お嬢さん」など、漱石は、くりかえし三角関係を描きました。昨年は、賢治の生誕120年でしたが、今年は、漱石生誕150年です。「土神ときつね」を読むことは、賢治をまるで漱石のように読むことなのかもしれません。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 78

その10 学校でのおはなし会(10) 差別的と批判のある本を読もうと思う時

ボランティアの方から「読もうと思っている本について、差別的であるという批判を聞いたことがあるが、自分としては差別的だとは思っていない。読んでもいいか。」という質問を受けることがあります。

これは、とても難しい問題ですが、言葉を使っている社会では起こりうる問題です。この場合、2つのケースが考えられます。差別的な言葉が使われているが、それを意識的に使うことで、差別とは何かということを読者に考えさせようとしている本である場合と、作品自体が差別的であると批判されている場合です。前者の場合は、作者の意図が読者に伝わるかどうかの検討が必要であり、後者の場合は、批判そのものについての検討が必要です。

特に、後者については、感覚的に自分は差別的だと思わないとすますのでは

なく、差別的であるという批判について、しっかり調べ、考え、それでも、自分はそう思わないと言えるのかを確認する必要があります。

それから、学校の教室で読む場合には、その責任者は担任の先生ということになりますので、事前に相談することをおすすめします。ただ、結論のみを聞くのではなく、相談の理由と自分がその本を読みたいと思う理由を伝えたいので、先生の判断を聞きます。

もしかしたら、先生は、ぜひ、読んでくださいと言われるかもしれませんが、読まないでくださいと言われるかもしれません。大切なことは、結果ではなく、その過程で先生と読み手が差別について意見を交わすことだと思います。

この積み重ねの中で、読み手の意識、または先生の意識が変わる可能性があり、そのことが差別をなくそうとする力となっていくのだと思います。

* 次号は「その 10 学校でのおはなし会 (11)」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《4》 行って来ました！

滋賀県立近代美術館で3月26日まで開催中の「絵本はここから始まった—ウォルター・クレインの本の仕事」展に行ってきました。19世紀後半に活躍した、現代の絵本の基礎を築いた重要な画家であるクレインの作品約140点と、クレインとともに絵本の黄金時代を築いた画家グリーンナウェイとコールデコットの作品約40点が展示されています。

展示は4章に分けられ、あちこちの大学や図書館、美術館、個人から集められた、クレインのほぼすべての絵本と主要な挿絵本が展示されています。

本の綴じがはずされて1枚ずつ額に入れられています。刷られたときにできた凹凸に温かみを感じます。『赤頭巾ちゃん』や『かえるの王子』などのよく知られている童話やマザーグースを題材にしたものなど、絵本をたっぷり楽しむことができます。

1865年から12年間、クレインは彫版師・刷師のエドモンド・エヴァンズと組んで、それまでは手彩色だった「トイ・ブック」といわれた安価な子ども向けの絵本を、美しい木口木版の多色刷りで作り、色数やデザインなどを試し極めていったとの解説がありました。くっきりした輪郭線や黒色の使い方は日本の浮世絵の影響が見られ、日本的なものが描かれてあったりするのも興味を覚えました。

トイ・ブック以外にもクレインのモノクロやカラーの挿絵の作品がたくさん紹介されています。絵の縁取りの装飾なども細やかで美しいです。ぬり絵の本もあり、ぬってみたいと思いました。

エヴァンズがクレインのあとに一緒にトイ・ブックを作ったコールデコットやグリーンナウェイの絵本もあり、それぞれの絵を見比べ、味わうこともでき

ました。もし、本文の英語を読めたなら、数時間では観尽くせないくらい見応えがありました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 講演会「絵本のつくりかた」－編集者が語る絵本制作

講 師：本多慶子（元福音館書店編集者）

日 時：3月23日（木）午後2時～4時

会 場：豊中市千里文化センター「コラボ」2階集会場（千里中央駅）

定 員：70人（当日先着順）

資料費：有料

主 催：千里えほん研究会

● 大阪国際児童文学館を語る会・考える会 in 名古屋

第1部 記念講演「学校図書館の未来と可能性」

講 師：五十嵐絹子（学校図書館アドバイザー）

第2部 大阪府立中央図書館 国際児童文学館の紹介

第3部 トーク&トーク「ようこそ 学校図書館へ！子どもの読書を考える」

パネリスト：飯田 寿美（元小林聖心女子学院 専任司書教諭）

五十嵐絹子（学校図書館アドバイザー）

小幡 章子（皇學館大学教育学部 助教）

永田 郁子（長久手市中央図書館）

コーディネーター：土居 安子（当財団 総括専門員）

日 時：3月26日（日）午前10時～午後4時

会 場：愛知淑徳大学 星が丘キャンパス（名古屋市千種区）

参加費：有料 申込み：必要

主 催：大阪国際児童文学館を育てる会／東海子どもの本ネットワーク

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『レイン 雨を抱きしめて』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.78プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は3月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

確定申告の季節が来ると億劫で仕方がない。申告書類を整えるのに、大変な根気と時間と労力を要する。あげく、少額でも還付なら報われた気にもなる

が、追加納付だと、何のための努力なんだか…。
今年も、給与の年末調整で戻ってきて、確定申告で払うという最悪パターン。
差引勘定同じでも、損した気分になる小市民。それでも無事申告を済ませれば、帰りの足取り軽くなる。…のは、心の負担の裏返し。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
 - 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
 - このメールの送信アドレスは配信専用です。
 - 記事の無断転載はご遠慮ください。
-

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
